



Miyazaki Higashi Weekly Rotary

D 2 7 3 0

Rotary Club of Miyazaki Higashi



No. 4

August 22. 2022

President : Minoru Matsushita
Secretary : Itsuo Torigoe

Tasaki Bldg.13-8,Miyata-cho,Miyazaki,Japan 880-0804
Tel: 0985-24-4872 Fax: 0985-22-0288

2022~2023年度 国際ロータリーのテーマ イマジン ロータリー

入りて学び、出でて奉仕せよ

会長タイム

松下 実 会長



みなさんこんにちは。本日は国際ロータリー第2730地区山ノ内文治ガバナーをお迎えしての公式訪問例会となっております。

今年度のR I 会長ジェニファー・ジョーンズ氏の唱える『イマジンロータリー』(想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらすと知っています。)

この内容を、私自身感覚として理解している感じで、まだ掘り下げられてないのが現状です。その私の『感覚』的にとらえたのは、与えられたことに関してベストを尽くしていくれば、より良い未来に繋がっていく、その今よりもすばらしくなるであろう未来を想像してみてください。

という感じでとらえました。

何事もベストを尽くす、やり遂げるというのは大変なことであり、それが最終結果ではなくあくまで通過点に過ぎないし、常により良い未来を創造していかなければいけないと私は感じます。

5年ほど前から『みやざき納涼花火大会実行委員会』にボランティアで所属しており、毎年毎年1時間ほどの花火打ち上げの為、半年前から実行委員会を開催し本番を迎えてます。

実際6日土曜日に無事第74回花火大会開催しましたが、一昨年はコロナ感染症感染拡大防止の為中止、昨年はオリンピック開催とも重なり、通常の8月からパリオリンピック終了後の9月末で段取りしてましたが、またもやコロナ感染拡大防止の為、2021年内での延期となり、誰もが中止と予想していた中、11月末に行う旨通達がありました。

準備自体はしてましたので無事開催することができました。

今までにない内容での開催で、スタッフ一同大変な一日だったと聞きました。聞きました、と言うのも私自身諸事情がありまして江南病院に入院しております、天神山越しにぬくぬくと花火を鑑賞しておりました。後日、まあまあ突っ込まれたのを覚えてます。

今週のプログラム

第1048回 例会 2022年8月22日(月)

◎夜間例会

ニューウェルシティ宮崎

18：30～

来週のプログラム

第1049回 例会 2022年8月29日(月)

◎外部卓話

NHK宮崎放送局 局長 小原 茂

毎年開催されるイベントなんかでも、スタッフ側は常に良いイベントになるように今年の反省を翌年の課題として毎年アイディアを出し合い開催してます。

とりあえず開催するといったような考えでは、活性化はおろか、無くなってしまう可能性も出てくるのではとも考えます。

ロータリーの活動にしても、昨年より今年、今年より来年、より良い未来を想像し活動していくたいと思います。

ガバナー公式訪問

ガバナー 山ノ内 文治(鹿児島RC)



皆さん 「イマジンロータリー」国際ロータリー第2730地区ガバナーの山ノ内文治です。

2022-2023年度国際ロータリー会長ジェニファー・ジョーンズ氏は、当年度のテーマをIMAGINE ROTARYとしています。

「想像してください、私達がベストを尽くせる世界を」

会員の積極的な参加を促すために、ロータリーには「適応と改革」が必要だとジョーンズさんは述べています。ジョーンズさんの住んでいるウィンザー市はかつてカナダの自動車産業の中心地でしたが、工場の閉鎖で数千人が職を失い、市は改革を迫られました。そこでウィンザー市は農業関連事業と、医療や宇宙航空の技術関連企業の誘致と支援に取り組み、いまではこの部門でカナダをリードする都市になりました。

ロータリーも変革を受入れ、各会員の参加を促すための適切な部品を見つける事、言い換えれば会員が積極的に参加し、やりがいのある責任を会員に与えることが必要だとジェニファー・ジョーンズ会長は言っています。

「私たちは今、果敢に、目的意識をもって行動し、リーダーシップを発揮できるかどうかが問われています。」

2023年までにロータリー会員基盤の30%を女性にするという RI 理事会の目標達成のリミットが迫っていることにも触れ、110カ国以上で既にこの目標が達成されてはいるものの、世界全体での達成には程遠いとジョーンズ氏はいいます。2730地区での女性会員比率は現在 10%程度です。女性会員を増加させて頂きたいと思います。

ロータリーが行ってきた奉仕活動に光を当てる。

いま世界は持続可能な環境・水と効果的な衛生設備、より充実した経済、質の高いヘルスケアへのアクセス、より多くの教育機会の実現をとメディアも政府も言っていますが、これは私達ロータリーが長年重点的に取り組んできたテーマです。特に 30 年以上もの間、私達はポリオのない世界を想像してきました。こうしたロータリーの奉仕を世界に示すプロジェクトに光を当てていきます。世界各地を訪問する中では異なるメディアへのアプローチを行い、またいくつかの訪問では世界的なジャーナリストに同行してもらいロータリーのストーリーを伝えてもらいます。

ロータリーはつながりを生かして協力関係を深め、新たなパートナーシップを作り出していく必要があります。ロータリーではそれをあらゆるレベルで行うことができます。

私達には皆、夢があります。その実現のために行動するかどうかを決めるのは私達です。ロータリーのような団体がポリオの根絶や平和の実現といった大きな夢を抱くなら、

「それを実現させる責任は自分たちにある」として最後にこの言葉で締めくくります。

「昨日のことをイマジン(想像)する人はいません。それは未来を描くことです。」

次に地区の基本方針・活動計画を少しお話します。地区テーマは

「知力を高め 未来へ繋げ 多様性あるロータリークラブの実現に」にしました。

ロータリーに入会した頃、先輩ロータリアンから「入りて学び 出でて奉仕せよ」と口酸っぱく教えられました。今まさにロータリーの転換期にあたり、原点に立ち返りロータリーを学び、ジェニファー・ジョーンズ会長の方針である多様性を認める社会の実現に向けて、未来のロータリアンに夢を繋ぐという思いを込めて地区テーマにしました。

さて、日本のロータリー 100 周年ビジョン策定委員会は「日本のロータリークラブを元気にするには何が必要か」の提言の 1 番に元気なクラブづくりをあげています。国際ロータリーは 2004 年 11 月にクラブ活性化に向けて CLP (クラブリーダーシッププラン) を決議しましたが、日本のロータリークラブは、従来の 4 大奉仕部門に基づく委員会構成と大きく変更されていたことへの反発があり、導入に慎重になったり、遅れたりするクラブもありました。

2016 年の規定審議会では、今までの例会や職業奉仕を重視してきたロータリー活動から、例会開催や職業分類もクラブの自主性に任せるという日本のロータリー運動とは考えが違う方向に変わりました。

私の入会時には地域の職業人が集まり、切磋琢磨して仕事を通じて、世の中に貢献するのがロータ

リーの基本と教わりました。

この素晴らしいロータリー運動も 21 世紀を迎えた頃から少しづつ変化が見えてきました。アメリカやカナダ、日本などロータリー先進国でも会員数が減少し、その活動も次第に人道的なボランティア活動が強調されるようになってきました。会員資格・職業分類制度・例会の月 4 回開催といった初期のロータリーの原理原則までも大きく変化してきました。ロータリーはこれで良いのかと言うベテランロータリアンもいます。

とは言ひながらも、私は国際ロータリーの地区内に一人しかいない役員です。

変化しつつある国際ロータリーの考え方を、しっかりと会員の皆様に伝えて 2730 地区全ロータリークラブの発展に努めていきたいと思います。

現在 CLP に基づく委員会構成は定着してきましたが、CLP に基づくクラブ活性化に向けての行動計画（戦略計画）を達成し実践されているクラブは少ないように思います。

当地区でもクラブ活性化にむけて地区の戦略委員会を中心に、クラブの長期計画、クラブ内に戦略委員会設置を奨励するなどの計画を実施してきました。いまだ計画の実践や、年度ごとの進捗状況のチェック、見直しなどに取り組んでいるクラブは多くないと思います。

改めて地区の行動計画を見ますと、主なものは次の通りです。

- ・クラブ戦略計画の立案と実行を推奨する
- ・ポリオ根絶活動においてロータリーが果たしている役割を広く伝える
- ・地区財団活動資金を活用することで、地域社会及び海外でのプロジェクトを増やす
- ・ロータリー財団や米山奨学会への寄付を増やす
- ・既存会員を維持し、新入会員の入会を促進する
- ・新しいクラブを結成する
- ・女性会員や 40 歳未満の若い会員の増加を図る
- ・クラブや地区リーダー育成のため、RLI 研修への参加を促す
- ・メディアとの関係を強化し、ロータリーとその活動を広報する。
- ・地区委員会組織、委員構成の見直しにより、地区運営の最適化を図る

この地区の行動計画をベースに、最近の地区的動きに沿い乍ら今年度の地区的活動計画を定めました。その主なものは次の通りです。

- 1.RI 会長テーマ「イマジンロータリー」の推進
「想像してください、私達がベストを尽くせる世界を」

会員全てが積極的に参加し、やりがいのあるロータリーライフを与えるよう努める

- 2.会員基盤の強化とクラブの拡大

既存クラブの会員増強と新クラブの設立特に女性会員の比率向上を目指す。

3. ロータリー財団への寄付推進

補助金を活用した奉仕プロジェクトを実施するため、寄付募金活動を推進する。

4. ポリオ根絶への寄付の推進

世界に約束したポリオ根絶を達成するための寄付推進。

5. 米山記念奨学会への寄付の推進

日本と世界の架け橋となりロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する外国人留学生を育てるための寄付の推進。

6. 青少年育成の推進

・インター アクト、ローター アクトの会員の拡大を支援し、それぞれの奉仕活動をサポートする。

・ライラの活動をコロナ前に戻して、青少年指導者の育成に努める。

7. 公共イメージ向上の推進

ロータリー活動を広くマスメディアに公開し、ロータリーの認知度を高める。特にポリオ撲滅に対してのロータリーの貢献度を広報する。

8. クラブ奉仕部門の活動支援

クラブ例会や地区的諸行事は昨年から今年にかけてのコロナ過で一変しました。緊急事態宣言下において例会を休会にするクラブも多かったですが、次第に ZOOM やハイブリッド型で開催するクラブも増加してきました。アフターコロナ下において何らかのルール作りを検討していく。

9. ロータリー奉仕デー及び IM の実施

ロータリアンだけの奉仕活動ではなく、ローター アクト、インター アクト、会員家族、会員企業従業員までを巻き込んだロータリー奉仕デーを開催する。IM もロータリー広報の一環として、グループ単位又は連合で開催する。

10. 地区運営マニュアルの活用促進

2730 地区では風呂井ガバナ一年度に。地区的運営マニュアルを制定し、各クラブにも配布しています。地区的運営にも機能しており各クラブの皆様にも充分読み込んで頂き、地区的在り方にも関心を持って頂きたいと思います。

最後に地区で取組みたいのが、ジェニファー・ジョーンズ会長が最も力を入れている「D E I」です。

DEI は 2019 年 1 月の RI 理事会で決定され
ダイバーシティ（多様性） エクイティ（公平性）
そしてインクルージョン（包みこむ）
それぞれの頭文字をとったものです。

ロータリーは多様性を尊重し、年齢、民族性、人種、肌の色、能力、宗教、性別志向
どんなバックグラウンドの人々の貢献も称え会員として受け入れます。

ロータリーの最優先事項は会員基盤の成長と多様化によって地域社会をより良く反映したクラブを

つくり、あらゆる文化、経験、アイデンティティの人の参加を促すことです。

ロータリーはさまざまな人が参加できる開放的な組織、すべての人に公平で、善意を築き、社会に役立つ組織作りです。

この目標を実現するため、RI 理事会は、多様性、公平さ、包摶さに関する声明を採択しました。

地区での取り組みとしまして

1. ジェニファー・ジョーンズ会長エレクトは 2023 年度までに女性会員比率を 30% に高めるよう求めていますが、2730 地区では各クラブの自発的な女性会員増加の数値目標を戦略計画に求め、女性リーダーを地区委員にも出向させる環境づくりも推進します。女性会員比率 今年度地区目標 12 % (参考 2022 年 4 月末 9.7%)

2. 地区内に DEI の委員会を立ち上げます。

3. 多様性や、公平性に詳しい専門家を招き、勉強会を実施します。

最後に

ロータリー日本財団理事長の千玄室さんは RI 理事を務め、京都ロータリークラブに 66 年も皆勤出席しているロータリアンであり、茶道裏千家の大宗匠でもあります。

1923 年 4 月 19 日生まれで 99 歳の今も元気に活動しています。

千さんは昨年開催された京都ロータリークラブ 95 周年の記念講演のなかで、

ロータリーの意義はと聞かれ「友を作り、奉仕し、国際的な視野を身に着けること」と説いています。ロータリーを簡単にいえば、自分を磨き、人を育て、時には慈善行為、ボランティア活動を行う世界的な団体です。

いまロータリーは多様性を認め、柔軟なクラブ活動を容認する方向に大きく変換しようとしています。私はこういう時代の流れを否定はしませんが、日本のロータリー運動の創始者米山梅吉氏が訳した「奉仕の理想」を理解し、決議 23-34 「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」を今一度噛みしめ、ロータリーの良さやアイデンティティを確認していきたいと思います。

以上でガバナードレスを終わります。

クラブフォーラム

中川 彰伸



本日は、山ノ内文治ガバナー公式訪問例会です。お忙しい中、我が宮崎東ロータリークラブにお越し頂きありがとうございます。又、藤本範行ガバナー補佐、三角悦久地区副幹事にもおいで頂きました。感謝申し上げます。

さて、コロナ禍も三年目に入りました。一昨年の 5 月、宮崎県中小企業家同友会から新型コロナウイルス感染症緊急アンケートがありました。その中に「新型コロナウイルスによる影響の収束」はいつ頃になると予想しますかと言う問い合わせには、1 年で収束するだろうと答えています。世界中の人々の英知を持って臨めば、コロナ “何する者ぞ” の心意気で 1 年後には又、人と人との交流が自由にできていると楽観して捉えていました。

先憂後楽と言う言葉があります。(為政者が、天下の事を) 人より先に憂え、人よりも遅れて樂しむこと。常に民に先立って国のことを行配し、民が楽しんだ後に自分が楽しむこと。北条(ほくそう)の忠臣 范仲淹(はんちゅうえん)が為政者の心得を述べた言葉だそうです。コロナ禍で言えば、組織(会社)の長として誰(社員さん)よりも先に危機感を持って対処し、誰(社員さん)もが安心して暮らすことができ、仕事に取り組めるようになって初めて自分も緊張を解(ほぐ)すと言うことになるのでしょうか。この心得を今噛み締めているところです。

そのような状況の中ではありましたが本年、宮崎東ロータリークラブも社会奉仕を行動指針として発足して 25 年の節目を、初めての女性会長である岩切久美前会長の下で迎えることができました。振り返って見ますと(7 年前になりますが)、2015-16 年度会員増強委員会を担当するにあたり、活動方針を [Challenge 30] とし、7 つの活動計画の中に [会員 30 名] [内女性会員 1 名以上の入会] を目指しました。宮崎東ロータリークラブは、48 名でスタートしました。創立 [1997(H 9) 年] から 18 年経過して会員は 24 名になっていました。半分です。何もしていなかった訳ではありませんが、会員増強は勿論、女性会員の入会も思うに任せない状況になっていました。

過日、セミナーで頂いた資料の中の「2005 年ロー



タリアン必携」に、『全ての組織は自然に任せると、会員の高齢化、病気あるいは転勤や引越しなどで会員が減少してくるものです。ロータリークラブも例外ではありません。』という記述があります。会員増強の重要性は、まさにここにありこの重要性の認識は皆さん一様にお持ちだと思います。

そして、『人集めのコツはその団体独自の魅力をつくること。この努力のあるところ、小さな団体でも人は必ず集まる。』と教えて貰ったことがあります。翻って宮崎東ロータリークラブの魅力は何でしょうか。それは礼節を重んじつつ年齢等に囚われずには家族的なお付き合いをさせて頂けることではないでしょうか。 frankな関係でロータリークラブ活動ができる唯一のクラブだと思います。この魅力を発信して新会員のお誘いとひいては出席率の向上、会の活性化等に繋げて行きたいものです。

併せて『事業は人で持っている。ものを作るのも、お得意先との折衝を行うのも結局は人がしている。だから、人が育っていない事業に発展はないし、それぞれが自分の役割において成長している事業はおのずから成長する。お互いそれぞれに研鑽に励みたい。このことは、『人の成長が事業の成長』とお聞きしたことがあります。このまま減少していくことの不安の中で、メンバーが諦めることなく、お声掛けを続けてくれたお陰で 2015-16 年度末の 6 月には会員 31 名になりました。そして今、会員 33 名、内女性会員 3 名で 40 名を目指しております。

又、昨年度は岩切久美前会長、平木泰英前幹事を始めとした執行部の下、コロナ禍でクラブ運営が困難な中にあって、初めてのハイブリッド例会で開催を続けました。恐らく宮崎アカデミーロータリークラブを除いて宮崎東ロータリークラブだけだったのではないかでしょうか。これは非常に於いては画期的です。見事な変化への対応だったと思います。

しかしながら平時にあっては、クラブ内の会員同士の交流、クラブ外の会員同士の交流、クラブと地域社会との交流等、コミュニケーションはアナログコミュニケーションを第一にフェースツーフェースの活動がベターのような気がします。

コミュニケーションには、スポーツを通じてコミュニケーションを図るスポーツニケーション、学び合いながらコミュニケーションを図る学びニケーション、食事ニケーション、飲みながらワイワイガヤガヤとコミュニケーションを図る飲みニケーション等々、日常の触れ合いの中から理解が生まれ、親しさが増し、そのことによって、ロータリー活動の活性化に繋げることもできるのではないかでしょうか。

そういう意味からも、ガバナー公式訪問例会は、ガバナーとフェースツーフェースでダイレ

クトコミュニケーションを公式に図れる、年 1 回の大切な時間です。ご助言等頂き実り多い時間にできたらと思っております。

25 周年を迎えた宮崎東ロータリークラブが、新たな一步を踏出す今年度、33名でスタートしましたが、1997(H7)年の創立の思いを忘れることなく全員で活動に取り組んで行きたいと思っております。

ありがとうございました。

クラブフォーラム

越山 直美

クラブの強みと弱みについて、あくまでも私の私見として発表させていただきます。

私は、ちょうど 5 年前に入会させていただきました。

お誘いをいただいた際に私が描いていたロータリーのイメージは、会社でいうと会長の立場にあるような時間とお金を持て余している方が入るところ、というものでしたので、私のような若輩者で、時間もお金も無い者に入る資格はないとお断りしました。

その時に私を誘ってくださった久寿米木会員が、東クラブはそんなことないよ、と言ってくださいり、自分の先入観を捨て思い切って入会することにしました。

さて、今日はクラブの強みと弱みを 2 つのポイントでお話したいと思っていますが、私が思うに強みと弱みは表裏一体なのではないかなということです。つまり強みは裏を返せば弱みにもなり、弱みは裏を返せば強みにもなる、ということです。そのような切り口でお話しさせていただきます。

1 つは、強みとしてアットホームであるという点です。

いろんな方がこの東ロータリークラブを評価される際におっしゃるキーワードに『アットホーム』が挙げられるのではないかと思います。私自身も入会後、推薦者である久寿米木さんのおっしゃるように堅苦しいだろうというイメージはすぐに打ち破られ、毎週例会に参加することは楽しいまではいかずとも苦痛に感じることなく過ごすことができました。特に新入会員に対しては最初のつかみではないですが、いかに居心地よく例会に出席でき、参加することが当たり前であることをインプットさせることは必要なことではないかと思います。

ただ、アットホームを強みであることの裏返しの弱みとして『緊張感が足りない』ということも言えるかもしれません。何事もし過ぎることはよくないと思っていますので、ほどよい緊張があると良いのではないかと思います。

もう1つは、会員数が少ないとこだです。この点については、まずは弱みとして受け止められると思います。東クラブでは常に会員増強を目標に掲げ、会長、幹事、担当委員長が頭を悩ませていらっしゃる問題です。会員数が少ないとこへの影響は会費収入が少ないなどの問題もあると思いますが、私レベルでは少し違っています。

私が入会する時に、ある規模の大きいクラブに入っている社長さんに言わされました。あそこのクラブに入ったら、すぐ役が回ってくるよ・・・と。その時はさほど気に留めなかったのですが、入会後2年目から今に至るまで毎年何らかの委員長を仰せつかっており、その時の社長さんの言葉の意味を今はしっかりとかみしめているところです。

私にとって毎年委員長に任命されることは弱みとしてしか考えていませんでしたが、切り口をか

えてみるとこうも考えられます。入ったばかりの身でも役は役。つまりは地区協議会やその他の会議に出席させていただくことで、深くロータリーに関わっていらっしゃる方のお話しを聞くチャンスに恵まれることができます。最初の頃は、皆さんのお話されるロータリー用語に戸惑うだけでそのような意識に至りませんでしたが、ごくごく最近東クラブにいるからこのような機会に恵まれるのだと少し思えるようになりました。

こう考えられるようになると、人数が少ない点は強みにもつながるのだと言えるのではないでしょか。

今回クラブフォーラムで発表してくださいとご依頼を受け、私自身が改めて振り返ることができました。このような機会を与えてくださいありがとうございました。

以上、私の発表を終わります。



出席状況報告

8月8日	第1047回
会員数	33名
出席数	28名
出席率	84.85%

本日のビジター 山ノ内 文治 ガバナー (鹿児島RC)
三角 悅久 副幹事 (鹿児島RC)
藤本 範行 ガバナー補佐 (高鍋RC)

マイキャップを積極的に行いましょう。

例会記録 第1047回 2022年8月8日(月)

プログラム

- | | |
|-------------------|-----------|
| ◎ガバナー公式訪問 | ◎クラブフォーラム |
| ガバナー山ノ内文治(鹿児島RC) | 中川 彰伸 |
| ガバナー補佐 藤本範行(高鍋RC) | 越山 直美 |